

レファレンスコーナー

県立図書館に寄せられたレファレンスの事例を紹介します。



Q. 「セラック」とはどんな成分のものか。また、発がん性はあるのかを知りたい。

〔回答〕

菓の成分の中に記載されていたそうです。聞きなれない言葉を聞いたとき、事典や辞書の総合データベース【Japan Knowledge+（ジャパナレッジプラス）】（参考文献4）はとても便利です。

一括検索すると、『日本国語大辞典』では「→シェラック」となっていたので、そちらを確認しました。「ラックカイガラムシの分泌物スチックラックから分離した動物性の天然樹脂。黄褐色から淡黄色で半透明ないし透明の薄片状、粒状、粉末状物質。…」とありました。『日本大百科全書』では、「動物性の天然樹脂で、インドやタイに生息するラック虫の分泌物である。」ほか、「氷河のクレパス（割れ目）によって囲まれた塔状の氷塊。」という解説、『情報・知識 imidas』では、「氷河上にできた塔状氷塊」「スイス産の白チーズの一種」とありました。ひとつの言葉でも、いくつもの意味があることに驚かされます。

今回のお問い合わせでは、菓の成分の中に記載されていたということでしたので、食品の成分に的を絞って関連資料の確認をしました。

『食品添加物事典』（参考文献1）では、天然添加物の「ガムベース」「光沢剤」のページに「シェラック」の項目があり、「[別名]セラック [定義]ラックカイガラムシの分泌物から得られた、アレウリチン酸とシェロール酸又はアレウリチン酸とジャラル酸のエステルを主成分とするものである。」という説明がありましたが、発ガン性などの記述はありませんでした。

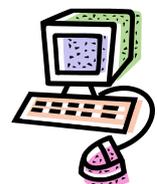
『食品衛生化学物質事典』（参考文献2）には、食品添加物の「ガムベース」のページに「シェラック」の項目があり、「[別名]セラック [性状]ラックカイガラムシの分泌物から得られる。黄色がかった透明のもろい鱗片状または粉状。エタノールに可溶、エーテル、ベンゼン、石油エーテルに可溶、水に不溶。主成分はアレウリチン酸とシェロール酸またはアレウリチン酸とジャラル酸のエステル。[他の用途]光沢剤」とありました。「発ガン物質」「自然毒」「カビ毒」というページがあり、あわせて確認しましたが、「シェラック」の記載はありませんでした。

『食品添加物毒性判定事典』（参考文献3）の「光沢剤」のページで、光沢剤に使用される添加物のなかに「シェラック」の記載がありました。毒性に関しては、「添加物によって違いがある」という記載のみで、発がん性については触れられていませんでした。

キーワード： セラック シェラック 食品添加物

〔調査プロセス〕

1. 電子資料【Japan Knowledge+（ジャパナレッジプラス）】（参考文献4）で検索。
2. 1の情報をもとに関連資料を調査する。



【参考文献】（ ）内は当館請求記号

- 1 『食品添加物事典』 総合食品安全事典編集委員会 || 編 産業調査会 1999年 (R/498.519/シヨ)
- 2 『食品衛生化学物質事典』 細貝 祐太郎 || ほか編 中央法規出版 2000年 (R/498.54/シヨ)
- 3 『食品添加物毒性判定事典』 渡辺 雄二 || 著 メタモル出版 2009年 (R/498.519/ワタ)
- 4 【Japan Knowledge+（ジャパナレッジプラス）】 電子資料

Q. 昭和 50 年代の高等学校現代国語の教科書に、久慈市の祭りの場面が描かれた短編が収録されていた記憶があります。そのタイトルと著者を知りたい。

〔回答〕

柳田国男の『雪国の春』におさめられている「清光館哀史(せいこうかんあいし)」の一節と考えられます。

『柳田国男と小子内浜』という資料には、「柳田国男の『雪国の春』におさめられている「清光館哀史」の一節をのせている高校の教科書は多い」と記載されています。

さらに、『種市町のむかし探訪』にも「清光館哀史」は「雪国の春」という単行本におさめられ紹介されるとともに高校の国語の教科書にも取り上げられたこともあって一躍有名になり、今でも柳田ファンが訪れるコースとなっている」と記載されています。現在この地には、「清光館哀史」の一節を刻んだ石碑が建てられています。

「清光館哀史」は柳田国男が 1920 年に三陸沿岸を訪れた際に記した紀行文で、小子内(久慈市の隣洋野町にある集落)の清光館という旅館に宿泊し、この地方の盆踊りをみたことが記されています。そして数年後、再び清光館を訪れますが、すでに没落していたのを目の当たりにし人生の無情さを感じるという作品です。

『教科書掲載作品 13000』は高校国語教科書に掲載されていた小説・戯曲・随筆・俳句・古文・漢文などの作品を作者ごとに記載した目録です。p 701「清光館哀史」の項目を確認すると、昭和 50 年代にも教材として使用されていたことがわかりました。

キーワード： 教科書 現代国語 岩手県久慈市 祭 盆踊り 昭和 50 年代

〔調査プロセス〕

1. google でキーワード「国語」「教科書」「岩手」「祭」「盆踊り」などで検索。柳田国男の「清光館哀史」が国語の教科書に使用されていることが判明。
2. 「清光館哀史」の詳細を確認。
3. 『教科書掲載作品 13000』で、掲載国語教科書や年代を確認。



【参考文献】 () 内は当館請求記号

- 1 『柳田国男と小子内浜 「浜の月夜」と「清光館哀史」の背景』
中村 英二 || 著 淵沢秀岳 1987 年 (K/382/ナ1/1イ)
- 2 『種市町のむかし探訪』 酒井 久男 || 執筆 種市歴史民俗資料館 2004 年 (K/271.3/サカ)
- 3 『ふるさと文学さんぽ 岩手』 須藤 宏明 || 監修 大和書房 2012 年 (K/918.6/フル)
- 4 『日本の文学 26』 柳田 国男 || [ほか著] 中央公論社 1969 年 (918.6/ニ 4/26)
- 5 『日本現代文学全集 36 柳田国男集』 伊藤 整 || [ほか] 編集 講談社 1980 年 (918.6/ニ 10/36)
- 6 『遠野常民 1994 年度版』 遠野常民大学 || 編集・出版 1995 年 (K/041/トオ/1994)
- 7 『教科書掲載作品 13000』
阿武 泉 || 監修 日外アソシエーツ株式会社 || 編集 2008 年 (R/910.31/キヨ)
- 8 『東北の旅』 草野 心平 || 共著 社会思想研究会出版部 1961 年 (K/290.9/ク1/1)

※このレファレンス詳細は「レファレンス協同データベース」で公開されています。是非ご覧ください。

「レファレンス協同データベース」 <http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>